

ID ^{注1)}	111207	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	紙	保管場所 ^{注1)}		前回ID	
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	---	---------------------	--	------	--

報告書名称 /調査名称	平成23年度保護林（米代川計画区）のモニタリング調査						発行年月/報告年月	
							2012年	3月
調査機関	東北森林管理局			委託機関	ソシオエンジニアリング株式会社			
調査開始年	2010年		調査期間	2011年	7月	～	2012年	3月
調査頻度 ^{注2)}			調査時期 ^{注2)}	夏 — —				
モニタリング計画	2012年3月	策定	区分 ^{注2)}	IIA	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(1)

調査箇所・範囲 ^{注3)}		調査手法
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり	 <p style="text-align: center;">調査対象地位置図</p> <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>	保護林名：白神山地 森林生態系保護地域 面積（ha）：4,344.15（米代西部森林管理署） 保護林の目的：日本海型ブナ林を主体とする原生的な天然林を保存し、森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林の管理・学術研究等に資することを目的とする。 調査項目：本調査の目的及び対象保護林調査を遂行するため、平成19年7月に策定された「保護林モニタリング調査マニュアル」および「平成23年度 東北森林管理局保護林（米代川森林計画区）モニタリング調査仕様書」に従って、以下の様式にとりまとめた。 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎調査 <ol style="list-style-type: none"> 1. 資料・既存文献調査整理表の作成 2. 保護林情報図及び情報図整理表の作成 3. 保護林周辺における衛星写真図の作成 4. 概況調査整理表の作成 5. 保護林モニタリング調査チェックリストの作成 6. 森林調査 7. 動物調査（鳥類調査） 8. 動物調査（哺乳類調査） 9. 利用動態調査 現地調査計画及び総括整理表の作成

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

（基礎調査）

青森県と接する柏毛川源流部の急峻な山岳地域にあり、日本海側の内陸多雪寒冷地に属する。青森県側のブナ林と連続的に繋がって世界最大級の面積を保持するブナ自然林である。この地域の森林は、ほぼ純林状態のブナを中心とした冷温帯落葉広葉樹林に広く覆われているが、標高、地形、土壌、微気象等の条件により局所的に様々な組成が見られる。

二ツ森（標高1086m）、小岳（1042m）が本保護林の高標高地にあたる。標高は高くないが積雪による影響もあり、ブナの生育に適した地域が広がる。稜線部ではササ草原となるが山腹斜面はブナの自然林が広く占める。かつて薪炭利用などが行われたところなどはミスナラの混生するところもみられる。

ブナを主とした植生は単調ではあるが、動物相は人の影響が少ないことから多様である。ツキノワグマをはじめとする大型哺乳類、クマゲラのような広大な自然林を必要とする動物の生息地として優れた地域である。

概況調査では、全般にブナ林が広がっている状況を確認した。また、聞き取りや現地踏査を交え、当初予定地点への到達に利用する登山道や登山道からの到達ルートがササやの繁茂により通行困難である1地点は、毎木調査が可能で植生・地形の類する地点へ設置した。

問い合わせ	林野庁 東北森林管理局 計画保全部計画課 〒010-8550 秋田県秋田市中通五丁目9番16号 TEL：018-836-2489 FAX：018-836-2203 ※「原本（データ）の帰属について」
-------	--

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

●森林調査

調査プロットNo.1(標高980m)

多雪に適応するため多くの樹木が根曲がりまたは斜立。高木層にブナ(樹高14m)、亜高木層にブナ、低木層にナナカマド、草本層にチシマザサ・ヒメアオキなどが優占。高木層を形成するブナの胸高直径は20～40cm。コア地域に隣接するブナ林。

調査プロットNo.2(標高850m)

多雪に適応するため多くの樹木が根曲がりまたは斜立。高木層にブナ(樹高20m)、亜高木層にコシアブラ、低木層にウワミズザクラ、草本層にチシマザサなどが優占。高木層ブナの胸高直径は30～60cm、平均では35cm程度。

調査プロットNo.3(標高840m)

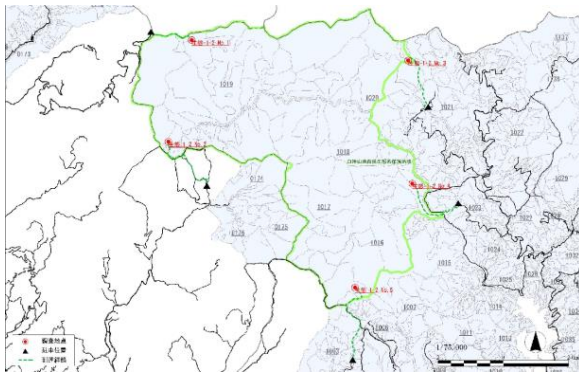
多雪に適応するため多くの樹木が根曲がりまたは斜立。高木層にブナ(樹高20m)、亜高木層にアオダモ、低木層にチシマザサ、草本層にヤマソテツなどが優占。高木層ブナの胸高直径は30～60cm、平均では40cm程度。

調査プロットNo.4(標高820m)

多雪に適応するため多くの樹木が根曲がりまたは斜立。高木層にブナ・ミズナラ(樹高20m)、亜高木層にブナ、低木層にオオバクロモジ、草本層にチシマザサなどが優占。高木層ブナの胸高直径は30～60cm、ミズナラは40～70cm程度。

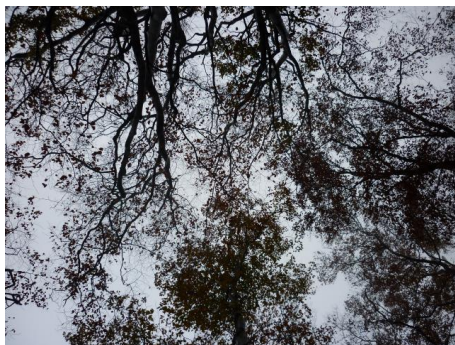
調査プロットNo.5(標高550m)

多雪に適応するため多くの樹木が根曲がりまたは斜立。高木層にブナ(樹高17～24m)、亜高木層にブナ、低木層にリュウブ、草本層にチシマザサなどが優占。高木層ブナの胸高直径は30～100cm。



(一ノ又沢からコア方向のブナ林を望む)

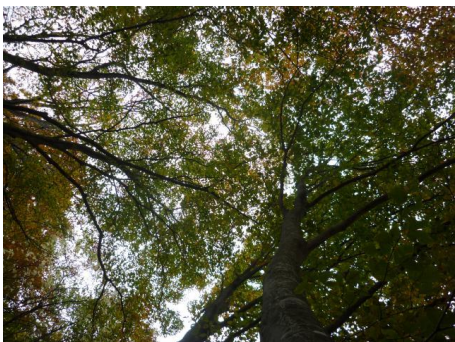
第1回モニタリングの結果: 保護林設置目的である多様な森林生態系が維持されている。



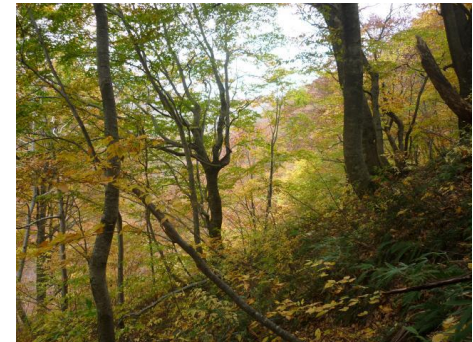
プロットNo.2中心点の真上の写真



プロットNo.2中心点より東方向の写真



プロットNo.5中心点の真上の写真



プロットNo.5中心点より磁北方向の写真

備考

●動物調査

哺乳類

ニホンザル(鳴き声・糞・目視)、トウホクノウサギ(食痕・糞)、ツキノワグマ(クマ棚・食痕・爪痕・糞)、テン(糞)、アナグマ(糞)、ニホンカモシカ(足跡・糞)の生息を確認した。

鳥類

19科46種の生息を確認。夏鳥として、ハリオアマツバメ、カッコウ、ツツドリ、ホトトギス、ノジコ、マミジロ、エゾムシクイ、メボソムシクイ、センダイムシクイ、ヤブサメ、オオルリ、キビタキ、コルリなど、冬鳥としてマガン、漂鳥としてクロジ、留鳥として、アオバト、アカゲラ、ゴジュウカラ、ミソサザイ、カワガラス、ウソ、ホシガラスなどの生息を確認した。

その他

サンショウウオ類:クロサンショウウオ(亜成体)、カエル類:アズマヒキガエル(成体)、ヤマアカガエル(成体)、モリアオガエル(成体)などの生息を確認した。

第1回モニタリングの結果:多様な動物生態系が維持されている。

●利用動態調査

2011.10.18 (平日) 天候:雨/曇 ・ 2011.10.23 (休日) 天候:雨/曇

調査地点:ニツ森登山口駐車場

・平日調査2011年10月18日(火)実施

44人が入山し下山した。登山客、紅葉客でキノコ狩りの利用者はいなかった。

風が強く曇りも多かったがガスはなく、山頂付近からの遠望はよかった。天候、平日という状況からすると利用者は計画的に遠距から来訪した方が多いと推定される。

・休日調査:2011年10月23日(日)実施

99人の来訪を確認した。登山客、紅葉客が大半である。

地元の来訪客を中心に、関東からの団体も2組あった。

ふたつ白神郷土の森でも同時期に調査を行ったが利用目的、平日休日の利用動態に違いが見られた。ニツ森は白神の秋田の顔として広い誘致圏を持っているが、ふたつ郷土の森は地元利用でこれから利用客が増える箇所と想定される。



(ニツ森登山口駐車場)



(ニツ森山頂)

第1回モニタリングの結果:利用状況については、適度な利用状況にあると感じる利用者が多かった。他には、ニツ森へ至る道の案内看板の充実や登山道の整備を求める意見、ニツ森山頂で見通しが利かないので、下草刈りをして欲しいといった意見、また、紅葉情報をもっと欲しいなどの意見が挙げられた。